

【議案 1】

ESD-J 2020年度 事業報告 (案)

<2020年4月1日～2021年3月31日>

I 概要

持続可能な社会の担い手育成を標榜してきたESD-Jは、国連がESD推進の国際枠組み「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて（ESD for 2030）」を採択したことをはずみとして、2020年度のスタートを切った。本年度は選挙による新理事の体制が整ったこともあり、ESD-Jの沿革にも触れての始まりとなった。市民組織としてDESDの推進に携わり、マルチステークホルダーのネットワーク構築や人材育成に実績を積み、既に20年になるが、ここ6年余りは環境省、文科省が共同で立ち上げた“ESD活動支援センター”の発足・運営の受託に注力した。その関係もあり、市民組織としてESD-J本来の事業全般の成果を疎かにしがちであったことが様々な課題として累積されているという認識が共有された。

これを顧みて、ESD-Jとしての原点に立ち返り、団体組織の存在意義とそのミッションを確認することができたことは今後の活動の重要なステップとなった。そしてESD推進のために下記の5つの重点課題をもとにした事業実施に着手できたことは、本年度大変意義深いことであった。

- ESD推進ネットワークの更なる発展に向けた支援
- 既存のSDGs・ESD推進団体との連携強化
- 自治体との連携推進
- 民間企業との協働の推進
- アジアを中心とする国際協力

新型コロナウイルス感染拡大によって顕在化してきた社会的な問題の中で事業実施にはさまざまな課題がもたらされてはいるが、オンラインなどにより遠隔地での参加を容易にするなどピンチをチャンスに変え対応してきた。

新たな理事の参加により、中長期計画の見直しやオンラインセミナー・オンサイトイベントの企画・実施、地域連携の具体的なアプローチ、国際的な情報集約などのワーキンググループも動き出したことは事務局の強力なサポートもさることながら、大きな成果といえる。

年度初め、総会と同日に開催された車座トークもオンラインで実施され、“気候変動”と共に主要な課題である“生物多様性”の世界的な動きの情報を得て、多様な専門分野の立場からESDの観点を引き出し、政府の『生物多様性国家保全戦略』改定に向けた意見書を提出することができた。また、多様な専門性を持ち、各地方で、様々な立場に属しているESD-Jの会員や理事が講師となって開催した“ESDオンラインセミナー”をシリーズで開催できたことはESD-Jの強みを発揮し、広くESDについて具体的な活動と結び付けて自分事化することに寄与する機会となったばかりでなく新たな事業モデルとすることができた。

更には、「未来につなぐふるさと基金」の助成事業として、企業と財団、それぞれの特性・強みを活かし、生物多様性の重要性を一般の人々に体験を通して伝えるという試みは今後新たな展開として期待され、大きな成果があったといえる。また本年度は、ESDはもちろん、生物多様性、気候変動などに関するCOPなど重要な会議が予定されるなど国際的な動きが注目されている中、国際協力の手始めとして国際会議の動向はじめ、様々な海外の情報も会員に広く公開し、共有することを通じてESD-Jの会員・ネットワークを強化し、SDGs・ESD推進のための環境整備に貢献できた。ESD for 2030をもとに我が国の国内実施計画に対して、広く会員に意見を求め、これを集約し、環境省・文科省に提言し、その多くを反映させることができたが、このことは政策提言を使命とするESD-J本来の大きな役割を果たすことができたといえる。

【議案1】

更には2020年度、エコアクション21の申請を準備し、2021年度初旬に取得のめどが立ったことはESD-Jとしての事業運営・組織運営に更に活かされるものと期待される。

II ESD推進事業

1 ESD推進ネットワークの更なる発展に向けた支援

(1) 2030年に向けた新たな枠組み構築への政策提言

① 国内実施計画への政策提言

ア 第2期ESD国内実施計画（以下「国内実施計画」と言う。）について、ESD-Jは理事会を中心に検討を進め、第1回（2020年12月）、第2回（2021年2月）のESD円卓会議において小玉理事がESD-Jとしての意見を提出し、また、ESD推進ネットワーク全国フォーラム（2020年12月）、日本ESD学会シンポジウム（2021年2月）において鈴木理事が意見を述べた。さらに、直接文部科学省、環境省と意見交換を行い、大略以下のような意見を表明した。

- SDGs実施施策におけるESDの反映
- マルチステークホルダーによるESD推進体制の強化
- ESD円卓会議、ESD関係省庁連絡会議の強化と一層の活用
- ESDに関する政府との市民社会組織等との意見交換の場の設定
- ESD推進ネットワークの更なる推進と重層的なレベルにおけるマルチステークホルダーの交流の場づくり
- 社会教育のさらなる推進とESDコーディネーターの配置への政策的支援
- DX（デジタルトランスフォーメーション）活用を含むSDGs・ESDに関する教員研修の強化
- 気候変動、防災・減災等重要課題に関する研修の充実
- 種々の国内・国際的な場での若者の積極的な参加・貢献の支援
- SDGs未来都市と地域ESD拠点等との連携促進
- 日本のESDの国際的発信強化
- withコロナ、postコロナにおけるESD、グリーンリカバリー推進
- 国内実施計画に対するパブコメの実施
- ジェンダー平等、女性のエンパワーメントの推進
- 大学等高等教育機関の役割の強化

イ このようなESD-Jの意見の多くは、国内実施計画（案）に反映されており、ESD-Jとしては、SDGsとESDの繋がりを明確化している点、マルチステークホルダーのパートナーシップを重視している点、個人の変容と社会の変革を目指すことを明示している点等、この案を高く評価しつつも、パブリックコメントに際し、国内実施計画（案）のさらなる改善に向けた意見、国内実施計画に基づく具体的な施策の展開に向けた意見を提出すべく準備を進めた。

② 人づくり（ESD）という観点からの生物多様性国家戦略への提言

ア 次期生物多様性国家戦略において、現在の教育制度の大幅な改善を含めた人づくり政策の抜本的な見直しと強化を図ることが求められると考え、環境省及び関係団体と意見交換を行い、次期生物多様性国家戦略に際し、人づくりの観点から検討されるべきと考えられる事項を取りまとめ、公益社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）と共同で、「人づくり（ESD）という観点からの生物多様性国家戦略への提言」を2020年11月20日に環境省に提出した。

イ この提言は、2020年12月22日に環境省により開催された第6回「次期生物多様性国家戦略研

【議案1】

研究会」に提出され、研究会での検討に付された。

ウ その後、2021年2月に行われた「生物多様性及び生態系サービスの総合評価2020概要(案)」に対する意見募集に際し、改めて提言の趣旨に従い、社会変革を実現するためには人々の意識を変えることが重要であり、そのためには教育、特に学校教育が大変重要な手段になること、これまでの科学者中心のアプローチだけでなく、学校教員を含む教育関係者との緊密な連携を強化していくことが重要との意見を表明した。

③ その他の提言・意見表明

ア 第6期科学技術・イノベーション基本計画：2021年2月に行われた「第6期科学技術・イノベーション基本計画(答申素案)」に関するパブリックコメントに際し、ESD-Jのメーリングリストによる周知・意見表明の呼びかけを踏まえ、ESD-J理事より、持続可能な社会づくりに向けた研究・教育人材の育成が重要である旨の意見を提出した。

イ みどりの食料システム戦略：2021年3月に行われた「みどりの食料システム戦略」中間取りまとめに関するパブリックコメントに際し、ESD-Jのメーリングリストによる周知・意見表明の呼びかけを踏まえ、ESD-J理事より、わが国における持続可能な社会づくりに向けて、将来的な農林水産業の重要性が増大することを踏まえ、そのための人材育成が急務であること、水問題、特に農業用水の合理化、効率化が重要になることを指摘した。

2 市民が主体となったESD事業

(1) 羅臼町における持続可能な地域社会づくりに向けた人材育成事業

2020年7月20日に羅臼町長、教育委員金澤氏ほか職員とESD-J阿部理事、鈴木理事とが、今後の羅臼における町づくり、人材育成について広範に意見交換し、羅臼町SDGs行動計画の可能性を含め、さらなる連携・協力を合意した。

2020年9月28日～30日にかけて、中田理事が北海道教育庁根室教育局、羅臼町教育委員会、羅臼町立春松小学校、知床自然センターを訪問し、情報収集及び意見交換を行った結果、まず羅臼町役場、教育委員会における体制整備が重要であることを明らかにした。さらに、2021年1月16日には羅臼町教育委員会金澤氏と重理事、鈴木理事、横田事務局長がオンラインで意見交換を行い、2021年度に向けて考えられる活動の候補を整理した。その結果を踏まえ、2021年3月1日に羅臼町長、教育長、阿部理事、鈴木理事、中田理事、横田事務局長がオンラインで意見交換を行い、羅臼町長の背局的なコミットを要請した。その後、羅臼側の体制が整うことを前提に、トヨタ財団国内助成プログラムB育てる助成への申請を念頭に置きつつ、2021年度に具体的に実施可能な活動についての検討を進めている。

これまでのESD-Jと羅臼町関係者との議論を踏まえ、2021年度に実施する可能性がある活動は以下の通り。とりわけ、①、③、④を中心に検討を進めているが、その実施に際しては、羅臼側の体制が整い、地元関係者が主体的に動く意思があることが前提になる。

- ① **教員の意識改革に向けたSDGs・ESD基礎編のオンライン研修**：教育委員会の学校への働きかけがカギになる。オンライン研修のアレンジは、それほど難しくはない。
- ② **知床学改訂**：2020年度の成果を踏まえて着実に進めることが必要。羅臼町一貫教育協議会の総合教育部会を戦略的に活用し、幼小中高の教員に加え、町の振興を担当する首長部局の職員、漁業者や加工業者、観光業者、知床ユネスコ協会関係者等を巻き込んだ体制づくりを行うことが期待される。それには首長部局、教育委員会の強いリーダーシップが必要。
- ③ **首長部局、教育委員会によるSDGs先進自治体の視察**：只見、飯田、対馬等、ESD-Jが訪問先とのつなぎをすることは可能。首長部局、教育委員会職員の意識改革に向けた第一ステップ

【議案1】

と考えられる。

- ④ **生徒間の交流**（まず環境を整える）：対馬高校、只見高校を始めとして、海洋教育関係で交流できる学校が多数考えられる。オンライン交流会を含め、全学的な交流活動ができると良い。交流を通じて羅臼独自の魅力の発見につながることを期待される。
- ⑤ **SDGsパスポート事業**：コロナ禍の状況を見つつ、必要に応じ知床ユネスコ協会が小中高校のユネスコスクールを支援するために行うSDGsパスポート事業に協力する。
- ⑥ **町の全体戦略、ランドデザインの見直し**：コロナ禍におけるデジタル・トランスフォーメーション（DX）の加速化により、オンライン会議の活用、テレワーク、ワーケーション、環境移住や教育移住を念頭に置いた新たな街づくりのビジョンを検討する。

（2）岡山ESDコーディネーター研修の企画・運営

岡山地域「持続可能な開発のための教育」推進協議会（岡山市市民協働局市民協働部SDGs・ESD推進課）より業務委託され、中国地方担当理事である池田理事が現場実務を担当した。

① 事業期間 2020年6月4日～2021年3月15日

② 事業の目的

本業務は、「岡山ESDプロジェクト」の重点取組分野に掲げている「人材育成」の一環として行う「ESDコーディネーター研修」の6年目で、ESD企画書作成ワークを通して実力のつく研修プログラム実施に努めた。実施にあたっては、岡山地域の人材を活用することで、研修のノウハウを岡山地域に蓄積できるようにしている。

③ 事業内容

ア 受講者人数：20名（講師スタッフ12名、計32名による研修）

イ 準備会合：第1回6月5日、第2回6月11日、第3回10月13日

ウ 集合研修（会場：岡山市勤労者福祉センター）：

- 第1回：11月6日〔内容〕「ESD・SDGsって何?」、「2つの実践事例から考える」（京山、東山での事例）、「なぜ企画書が必要なのか」、「企画書の書き方」、「実際に書いてみる」、「Q&A」、「ふりかえり」等。
- 第2回：12月4日〔内容〕「前回のふりかえり」、「前提条件の共有」、「企画の概要書づくり」、「企画の概要書を書いてみる」、「グループで共有」、「Q&A」、「振り返り」等。
- 第3回：1月29日〔内容〕「企画書発表会」、「企画の練り直し」、「研修全体のふりかえり」、「弱音吐きタイム」、「みんなの疑問をみんなで考える」、「全体総括」、「修了証授与と振り返りの発表」等。

エ 個別相談会（会場：岡山市勤労者福祉センター）：11月27日

④ 成果及び課題

2020年度は、コロナ禍を踏まえて、Zoomを用いた遠隔での参加を可能にしたほか、研修内容を収録した動画による学習も可能にするなどの配慮を行った。研修自体は過去5年間に積み重ねてきた実績も効いて、滞りなく充実した研修ができたが、コロナ対応からメンバー間での交流を深めるプログラムなどを制限せざるを得なかった。今後は、コロナ対応であっても、受講者がより多くの受講者と交流できる時間やプログラムを充実させていきたい。同様に、コロナ対応で密を避けるために参加者数を絞らざるを得なかったため、過去の本研修受講者（平成27～令和元年度）に多数参加してもらい、その経験を活かす交流プログラムなども2020年度は見送ったが、この点も導入できるようにしていきたい。研修関係者から、研修終了後に自由交流ができる場をつくったり、実践内容を発信・交流できる場を提供したりすることが要望された。2020年度、研修最終日に有志によってLINEグループが形成され、運用されているが、本研修を通してできたつながりが活かされていくように、より多くの受講者が利活用しやすい

【議案 1】

仕組みにしていきたい。研修後の実践や活躍の場、交流の場、スキルアップの場などが組み込まれた研修にしていきたい。

(3) イベントの主催、実施

2020年度は、ESD カフェを計4回開催し、会員、一般の方々にESD-Jの活動、並びにESDに関連する様々な分野の活動に関心を高めてもらい、ESD的な行動変容を起こすきっかけ作りを積極的に創造した。詳細は以下の通り。

① 未来につなぐふるさと基金の助成を受けて実施したイベント（計3回）

ア 事業期間 2020年4月1日～2020年12月31日

イ 事業の目的

「未来につなぐふるさとプロジェクト」は、以下の3者と採択団体がそれぞれの強みを活かし、広く一般の方に対して生物多様性保全の重要性を伝えるという目的の達成に取り組むものである。

ウ 共同事業者

キャノンマーケティングジャパン、パブリックリソース財団、公益財団法人日本自然保護協会

エ ESD-Jの本事業の活動目的

街中で一般に販売される食品には、生産効率性や見た目だけを優先して生産された海外からの輸入品や、食品添加物や残留性農薬を含む食品も多く存在する。特に成長期の子供にとって、食の安全は重要な課題である。このプログラムを通じて、子供も大人も、生物多様性・環境に優しい消費へ行動を変容することで、自らの健康を守るだけでなく、市場メカニズムを通じて、生産地の生物多様性向上に貢献することを目的としている。

オ 活動内容、成果及び展望

(ア) 「第1回：田んぼの生き物調査」(オンサイトイベント・千葉県)

- 実施日時：9月13日（日）10:00～14:30
- 協力団体：谷当里山計画NPO法人バランス21、わたしの田舎・谷当工房
- 講師：房総野生生物研究所代表・手塚幸夫さん
- 参加者：一般13名、関係者8名（コロナ禍で参加者を県内在住者に限定、小規模で実施）
- 内容：生物多様性、豊かな自然というものが実際にどのようなものを生き物の採取を通じて、視覚と身体で体感する機会を創出した。そして、それぞれの生き物がバランスを保って自然が成り立っていること、お米や食べ物を育てるのには豊かな自然環境が必要なことを講師に解説していただき、生物多様性と私たちの生活が深く関連していることの理解を促した。本イベントは、キャノンマーケティングジャパンの講師による写真教室も同時に開催し、採取した生き物を参加者それぞれが一眼レフカメラで撮影することで、より詳細に多様な角度から被写体を観察することが出来た。

(イ) 「第2回：どんなことができる？安全・安心なファミリーレストラン」(オンラインワークショップ)

- 実施日時：11月7日（土）14:00～16:00
- 講師：(株)アレフ エコチーム 環境教育企画・制作担当・高木あかねさん
- 参加者：一般15名、関係者2名
- 内容：ハンバーグレストランびっくりドンキーの詳細の取り組みを紹介していただく前に、まず参加者にグループワークで安全性・持続可能性と、経済面・現実性のバランスが取れた食材の確保とレストラン経営について考えるワークショップを行った。理想論のみを議論するのではなく、ファミリーレストランで提供する価格帯、300店舗という量の

【議案1】

安定供給、経営面なども考慮した現実的な提案をしてもらったことで、参加者それぞれが譲れない点、妥協できる点について考えるようデザインした。正解のない問いに異なる年代・背景を持った他者と取り組むことで、多様な意見が出て、建設的な議論ができた。参加者にはファミリーレストランでも生物多様性、環境に配慮した取り組みを実践している会社があることを知っていただく機会となり、レストランで食事をするという身近な行動が、持続可能な社会づくりにつながるということを学んでいただくことが出来た。

(ウ) 「第3回：甘いバナナの苦い現実」(オンラインワークショップ)

- 実施日時：12月5日(土) 14:00～16:00
- 講師：立教大学異文化コミュニケーション学部教授・石井正子さん
- 参加者：一般21名、関係者1名
- 内容：まず参加者に普段食べているバナナを実際に行って買ってもらい、そのバナナをなぜ選択しているかという自分の行動を見つめるパートを設けた。第1部では、フィリピンでバナナが生産されている様子や、輸入されているバナナの特徴等の概要を説明した。第2部では、「甘いバナナの苦い現実って？」と題してバナナ産業の仕組み、産業の問題点や、ステイクホルダーが抱えている課題、環境問題などを中心とした説明を行った。第3部では、バナナにまつわる問題を自分事として捉えるために、第2部で出てきた登場人物を参加者に割り振り、ロールプレイを行った。①自分の利益を最大化するには、②産業を持続可能にし、ステイクホルダー全員の利益を最大化するためにはどうすればよいかという2つの視点でディスカッションし、最後に消費者である日本人は何ができるのかを考えた。

※上記プログラムの参加者計：一般49名(うちリピーター4名)、関係者11名。

カ 成果及び課題

- (ア) アンケートをもとにプログラム参加者の満足度を測ったところ、回答者44名のうち43名の満足度が高かった。(第1回13名、第2回14名、第3回16名)
- (イ) 生物多様性に対する参加者の理解度を測ったところ、27名中「とても理解が深まった」が20名(第1回13名+第2回7名)、「理解が深まった」が6名(第2回)であった。(第3回のセミナーは直接来客には生物多様性に関連していないトピックなので、この設問を設けていない)
- (ウ) バナナなどの農作物や食品を買う際の視点が変わったと思いますかという質問には、17名中、「強くそう思う」が5名、「そう思う」が11名、「あまり思わない」が1名であった。
- (エ) 個人レベルの行動変容の例としては、第1回のイベント講師・手塚さんの開催する他の生物多様性の勉強会への参加の意思を示した(2名)、第1回のイベント参加者が第2回のイベントに申し込んでくださった(2名)、第2回のワークショップの後、早速びっくりドンキーで食事をした(2名)、第3回参加者が「農薬による健康被害や、労働環境などの実態を踏まえ、私たち消費者が出来ることがないか、子ども達とも話をしてみたい」、「物事を別の側面から考える重要性に改めて気付かされ家族や友人にもシェアしたい」というように、学んだことを家族や友人に知ってもらうための行動を起こしたいと回答した。
- (オ) 課題としては、コロナ禍のため対面のワークショップをオンラインで行ったが、グループワークの運営のために各班にファシリテーターとしてESD-Jの職員を配置したが、ESD-Jの職員の数に限られているため4-5グループしか作れず、より多くの方々に参加していただきたかったが少人数(20名程度)に限定せざるを得なかった。オンラインでイベント記録(講師の発表資料と動画、ワークシート)を公表しているため、当日参加

【議案1】

できなかった方にはそれらをご案内している。

キ 助成団体からの評価・コメント

オンラインでのイベント開催など、コロナ禍においても工夫をこらした多面的な活動は大変魅力的に感じる。イベント内容も、エシカル消費や実際の生活と紐づけた生き物調査等、明日からの消費行動変革に役立つ内容となっていた。田んぼでの体験活動もさることながら、学校給食に有機米を取り入れる取り組みを合わせて紹介するところが素晴らしい。また、ファミレス事業者の取り組みを題材に持続可能な食の在り方を考える講座はもっとたくさんの方々に知っていただきたい。2021年は参加者数の規模の拡大を工夫、オンデマンド配信を組み合わせるなどして、より多くの方々に考え方を普及してはどうか。来年度は違った視点からのセミナーを企画すると記載があり、期待できる。

② その他、自主事業として実施した活動

ア 第9回 ESD カフェ Tokyo「絶滅危惧種シリーズ」ヘラシギの旅 ～長旅の休憩所日本のおもてなしは、いかに？～

- 実施日時：2021年3月21日14:00～15:30
- 講師：EAAFPヘラシギタスクフォース日本代表、ラムサール・ネットワーク理事・柏木実さん
- 参加者：一般20名、親と一緒に参加した子ども（未就学児2名、小学生5名）の計27名、関係者5名
- 内容：今回はIUCNレッドリストのCR（近絶滅種）に指定されている危機的な状況にある渡り鳥『ヘラシギ』をテーマにし、世界中で100つがいのヘラシギを守るために、ヘラシギの生態や課題のお話を聞き、中継地・日本に住む私たちが出来る事は何かを意見交換した。子どもにも伝わりやすいように、ヘラシギの雛が誕生してから越冬地のベンガラデシュへ辿り着くまでの旅の途中、様々な危険と遭遇する様子を紙芝居でリアルに描写した。
- 成果及び課題：オンラインでの紙芝居は、初めての試みだったが、子どもにも分かりやすかった、もっと長く見ていたかったと言う感想をいただき好評だった。また、このワークショップを通じて、ヘラシギの直面している問題は気候変動問題や他の環境問題と密接につながっていると実感した参加者が多かった。そのため今後自分ができることとして、省エネ・温暖化防止を心がけたい（14名）、海岸や湿地を気にしてみることから始めたい（13名）、ゴミ拾いから始めたい（11名）、バードウォッチングから始めたい（6名）といった次のステップに繋がる回答が参加者から得られた。また、もっと小学生、親子連れを対象としたイベントを開催してほしい、今回のフォローアップイベントがあったらまた参加したいといった要望も挙がった。イベント参加後に、今回の紙芝居のような野生生物を守るための教材開発に協力したいという大学生からコンタクトがあるなど、今後の展開が期待できる動きもあった。

課題としては、紙芝居以外のパートは小学生、それ以下の子どもたちには難しかった。イベントの対象を子どもと保護者とするのであれば、子どもたちに理解できるようもっとかみ砕いた表現にする、ワークショップは子どもと大人を分けて、子どもたちにとって身近な問題について考えてもらえるように導くなどの工夫が必要だった。

イ エコライフフェア2020 Onlineにおける活動紹介

- 開催日時：2020年12月19日（土）～2021年1月17日（日）
- 内容：オンライン特設ブースにおける展示
- 訪問者延べ：477名
- 成果：本イベントは例年、新宿御苑で開催されているが2020年度は参加費無料、オンラ

【議案1】

イン開催に変更されたため参加し、近年の活動紹介を行った。本イベントで当団体を知った中部大学の大学生から、掲載した事業の詳細や、当団体の活動についての問い合わせがあった。これまで当団体の活動を知らない方に知って頂く機会となった。

ウ ESD推進ネットワーク全国フォーラム2020 「バーチャルポスターセッション」参加

- 開催日時：2020年12月19日（土）～2021年1月29日（金）
- 内容：当団体のウェブサイトにもポスターセッションページを作成し、全国フォーラムのバーチャルポスターセッションページからリンクで飛ぶように設定し、全国フォーラムの参加者に活動紹介を行った。
- 訪問者延べ：76名
- 成果：例年はポスター展示、資料配布など静の展示を行っているが、今回は活動紹介動画、写真が多く掲載されたウェブ報告ページという視覚に訴える展示を中心に、訪問者に見ていただくことが出来た。

3 国際事業

(1) アジアのESDに関するNGOネットワーク (Asian NGO Network on ESD: ANNE)

SDGs・ESD関係の国際活動を推進するための国内体制の整備・充実について、日本ESD学会で国際活動を行うための国際WGを、日本ESD学会山下理事を委員長として設立し、各方面の専門家からなる検討を進めており、第1回会合を2021年3月31日に、第2回会合を4月28日に開催した。ESD-Jの鈴木理事がこの会合に参加し、ESD-Jが進めようとしているANNEの再活性化やESD-J会員に対する国際情報の周知について説明するとともに、より広範な国際情報の周知方法とそのための課題について議論することを提案した。

SDGs・ESD国際プロジェクトに向けてANNEの再活性化を行うため、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) から情報を入手し、マレーシアRCEゴムバックの関係者と協働プロジェクト実施の可能性について予備的な検討を進めた。また、ANNE活動と関係が深い識者から非公式に意見を聴取し、ネットワークの再活性化には時間がかかる旨の意見を得た。

(2) ESDに関する国際情報の発信

国際事業担当の事務局員・牧野朝香氏の協力を得て準備を進め、ユネスコ本部、ユネスコ・バンコク、国連本部、世界経済フォーラム、世界銀行、国連環境計画等から情報を得て、2020年9月から国際情報の発信を開始した。私事都合により10月末に牧野氏が退職したものの、2021年3月末までの7ヵ月間において、ESD-J会員メーリングリストを通じて合計31回の情報発信を行った。主な発信内容は、ユネスコや国連による国際会議等のイベントの開催案内及び結果報告、2021年5月に予定されるESD世界会議に関する情報発信等であるが、最新の国連やユネスコ、国連環境計画、世界経済フォーラム等のレポートの紹介なども行っている。

4 その他事業

(1) NPO活動のESD評価事業

2019年度に開始したNPO法人えひめグローバルネットワーク（以下、EGNと記載）との協働事業「モザンビークESD活動記録のまとめ・評価協働事業」の「ESD評価指標の選定と、評価報告書の作成」業務を実施し、2019年度に作成した「EGNのモザンビーク支援活動、ESD実践に関する記録、資料のまとめ」と併せて報告書として提出した。本事業の経験を元に、EGN以外のNPO・地方自治体・企業等の活動に対しても、要望に応じてESDの視点をを用いた多角的な評価、分析を実施することで、ESD的な活動の広まり・深まりや課題等を可視化し、ESD活動を継続・進化さ

【議案1】

せていくための道筋を提案することを目指していきたい。

(2) グリーンチャレンジデー2020の「環境省環境教育推進室ブース」企画・運営

新型コロナウイルスの感染拡大の影響でイベントがオンラインに変更され、また2020年度は環境省環境教育推進室から企画提案の提出を求められなかったため参加しなかった。

(3) HESDフォーラム推進事業

「ESDにおける高等教育機関が果たす役割の重要性、ESD-JとESD関係機関との連携強化の必要性を鑑み、2020年度事業計画においてHESDフォーラムの事務局をESD-Jが務める方向でHESDフォーラムとの調整を行うこととされた。この決定を踏まえ、

- ① HESDフォーラムの事務局をESD-Jが引き受けることにつき、HESDフォーラム幹事会に諮り、異議なく了承された。また、懸案になっていたHESDフォーラムの参加者名簿につき、過去の参加者リストを精査し、最新のHESDフォーラム参加者リスト(案)を作成した。この参加者リスト(案)には過去のHESDフォーラム参加者一覧が示されているため、一部には、引退したり異動したりしている者が含まれるため、今後更なる精査・確認が必要である。
- ② コロナ禍に伴い、2020年秋に八戸学院大学で予定していた第14回総会・発表会が開催できなかった。そのため、2021年秋に八戸学院大学で第14回総会・発表会を開催する可能性を模索することとした。
- ③ HESDフォーラムの体制の刷新については、過去数年間にわたり議論されてきたが、会長、副会長の大学からの退職に伴い、新体制の早期の確立が求められているため、HESDフォーラムの規約の改正を含む体制の刷新につき、2021年度に検討する必要がある。

(4) 新規事業のための調査・準備

① 日本民間公益活動連携機構(JANPIA)¹資金分配団体としての応募の可能性の検討

ESD-Jは、持続可能な社会づくりに向けた人材育成に係るJANPIA資金分配団体になる可能性を検討するため、様々な関係団体へのヒアリングを行った結果、資金分配団体で申請する場合、分配団体として採択されるためには、少なくとも数年間をかけて資金分配の実績を積んだり、必要な体制・規定を整備したりする必要があるため、中長期的な視点に立って、時間をかけて準備を進めていくこととした。

② 令和2年度環境教育等促進法基本方針の実施の効果測定に向けた調査業務への応募

環境教育等促進法基本方針実施の効果の測定に向けて、我が国における環境教育の現状を調査・整理し、課題を検討して取りまとめを行うことを目的とする業務(入札額3,900千円)に応募したが、不採択であった。

③ 令和3年度地球環境基金事業への申請

小金澤理事を中心に、令和3年度地球環境基金事業「オンラインセミナーを活用したESD/SDGsの学びあいネットワークの構築」(要望額3,302千円)をとりまとめ、申請したが、

¹日本民間公益活動連携機構(JANPIA)は、2018年1月1日に休眠預金等活用法が全面施行されたことに伴い、同法に定める指定活用団体となることを企図して、同年7月に一般社団法人日本経済団体連合会(経団連)により設立された。日本においては、人口減少、高齢化の進展等の経済社会情勢の変化により、国民生活の質や水準に影響を与える様々な課題が顕在化しており、こうした課題を解決するためには、行政の対応だけではなく、民間によるイノベティブな活動が求められていることから、休眠預金を活用して、誰ひとり取り残すことなく未来の子ども達にサステナブルな社会を引き継ぐために、オールジャパンの体制で多様なステイクホルダーと連携の下、民間の英知、創造性、革新力を結集して、社会の諸課題の解決に革新的な手法でチャレンジし続ける担い手を支える触媒になることを目指している。

【議案 1】

不採択であった。

④ 令和3年度ESD活動支援センター（全国センター）業務への応募

ESD-J内にワーキング・グループ（WG）を立ち上げ、令和3年度ESD活動支援センター業務への応募につき、応募内容の検討を進めたが、環境省からの入札書類を詳細に検討した結果、ESD-J単独での応募は困難と判断されたため、日本環境協会（JEAS）と連携・協力することとし、JEASからの再委託という形で、国際情報、国内情報の収集・提供業務を担うこととした。[最終的に、令和3年度には国際情報の収集と発信、地方センター、地域ESD拠点以外の情報源からの国内情報の収集及びウェブサイトへのアップロードを行うこととなった。]

⑤ その他

2021年度事業の申請に向けて、羅臼における地域活性化に向けた人材育成事業として実施できる活動内容について検討し、羅臼町の関係者と意見交換を行った。（上記参照）

2021年度事業の申請に向けて、アジアのNGOとの連携によるESD国際事業に関する予備的な検討を行った。（上記参照）

(5) 教材開発プロジェクト

① 日能研教材開発プロジェクト

日能研からESD-J、日本環境教育フォーラム（JEEF）、日本エコツーリズムセンターに対して、日能研に通う子どもたちに「答えが定まらない（正解がない）問い」を投げかけるための素案作成を依頼された。日能研は、毎年ゴールデンウィークに合宿型体験イベントを開催しているが、2020年はコロナ禍で開催を見送った。代わりに「答えが定まらない（正解がない）問い」を投げかけ、生徒間で議論し合うセッションをオンラインで開催するということとなり、各団体の特徴を活かした問いの素案を提案してほしいとの依頼があった。本件は、鳥屋尾理事と事務局で対応し、問いを掲載したポスター案と先生向けの問いから議論をどのように膨らませるかのヒントを提出した。日能研から教材が活用されたらフィードバックを得られることとなっているが、現時点では受領できてない。

② 社会問題を“解決できる人”を育てる教材開発プロジェクト（紙芝居）

2019年12月～2020年1月にパブリックリソース財団によるマッチングファンドキャンペーン「Eチャレンジ」が行われ、ESD-Jは、「社会問題を“解決できる人”を育てる教材開発」プロジェクトへの寄附を募集した。この寄附を活用して2020年度は教材開発を行った。本プロジェクトは、ESDカフェTokyoやグリーンチャレンジデーの経験を踏まえ、複雑な国際・環境・社会問題であっても、絵と単純化した物語を用いて、子供の集中力が持続する短時間でストーリーとして伝えることにより、子供達にも十分に高い理解と問題意識が共有されるという実証に基づいている。教材としては、上述のヘラシギの紙芝居、紙芝居のデジタル化、紙芝居を活用したオンラインワークショップの開催を行った。デジタル化した教材は、ESD-Jのウェブサイトに掲載しており、将来数が増えたらアーカイブ化することを構想している。

③ ESD教材のオンラインアーカイブの作成

ESD教材のオンラインアーカイブ作成の前提の作業として、まずウェブサイトの見出し、カテゴリーの変更、編成の見直しを行った。専門家の協力なしに自力で変更できる範囲でウェブサイトの改訂を行ったが限界があるので、今後は助成金等で資金調達をして専門家に改訂作業を依頼したいと考えている。

2019年度のグリーンチャレンジデーのために作成したマイクロプラスチックをテーマと

【議案1】

した紙芝居「プラ太郎・プラ子の旅」は、デジタル化してウェブサイトに掲載している。その紙芝居が小学校2校で環境問題、SDGsについての授業で活用されたと報告を受けた。千葉県の小学校では、その紙芝居を参考に、生徒たちがプラスチックごみを減らすために自分たちができることを考え、紙芝居として表現して他の生徒たちに呼びかけるという取り組みが行われた。

(6) オンラインセミナー事業

2020年度は、理事が中心となりオンラインセミナーシリーズ「持続可能な社会のための人材育成」を下記の5回、開催した。

① 第1回：ESD/SDGsって何でしょう？

コーディネーター：小金澤理事

- 「ESD/SDGsを自分ごとにするために」講師：重理事
- 「皆が安心して安全に暮らせる社会づくりに向けて」講師：鈴木理事

② 第2回：自治体とESD/SDGs

コーディネーター：小金澤理事

- 「地域づくりとESD/SDGs」講師：阿部理事
- 「岡山市の事例から自治体のESD/SDGsの取り組みについて考える」講師：池田理事

③ 第3回：企業とESD/SDGs

コーディネーター：福井理事

ゲスト講師：

- 「株式会社SOUGO Company Profile」株式会社SOUGO 代表取締役社長・北條裕子様
- 「ステイクホルダーとの協働によるESDへの取組」SOMPOホールディングス株式会社 CSR室長・越川志穂様

④ 第4回：地域づくりのESD/SDGs

コーディネーター：池田理事

- 「地域のネットワークを活用した地域づくり～東北地方の実践から」講師：小金澤理事
- 「ESDを通じた地域の人材育成とSDGs」～これからの学校教育とジオパーク教育の目指すもの～講師：大塚明様

⑤ 第5回：教育現場におけるESD/SDGs

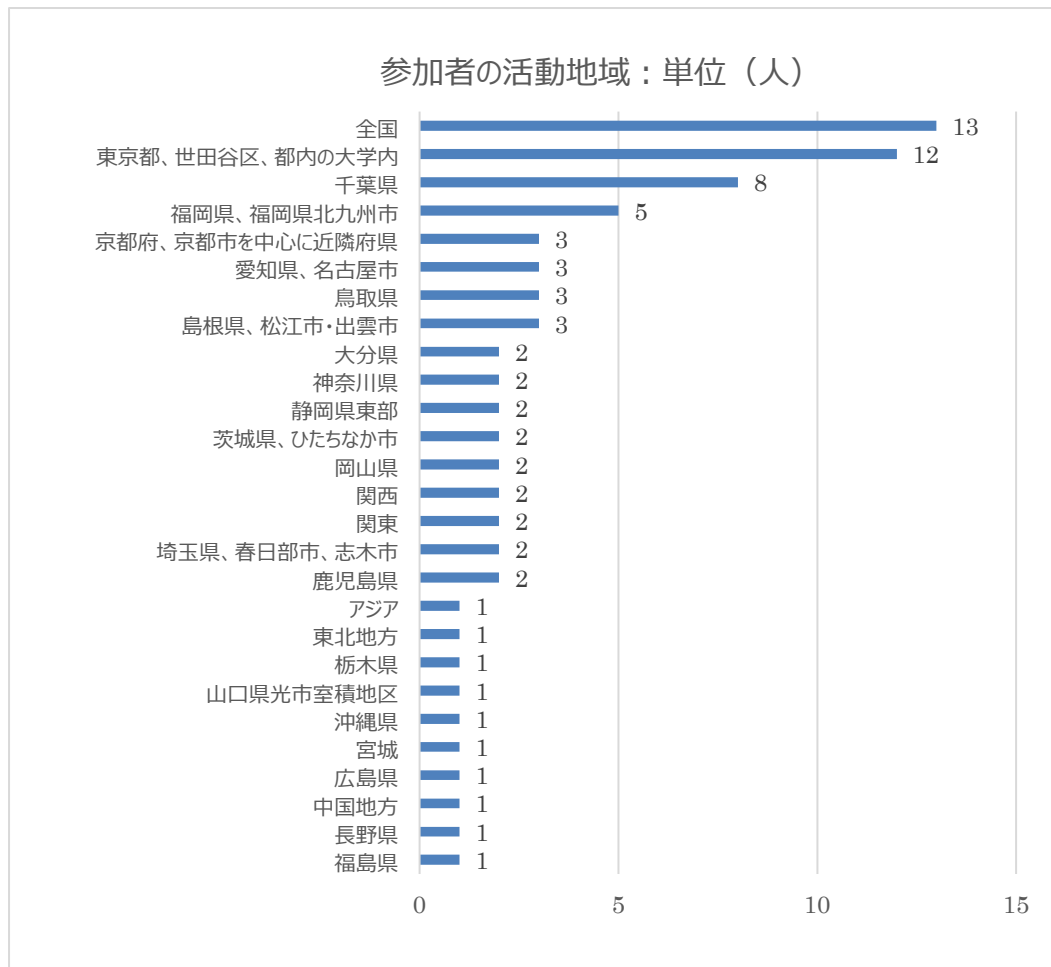
コーディネーター：鳥屋尾理事

- 子どもからの学びを地域づくりの力へ～北海道「うらほろスタイル」の取組～講師：中田理事
- 地域の持続可能性に向き合う学校ESD～長野県飯田市遠山郷の事例を中心に～講師：小玉理事

<アンケートの分析>

第1-5回の参加者延べ人数	142名
各回の参加者数 (関係者除く)	第1回23名、第2回22名、第3回32名、 第4回34名、第5回31名
リピーター数	理事5名、一般28名 (うち5回参加3名、4回参加4名、3回参加7回)
アンケート延べ回答者数	121名
非会員率	51%
参加者の活動地域	下記の通り

【議案 1】



<ESD-Jへの主な要望、提案等>

- 日本におけるESD/SDGsの取組の全体像、各分野の取り組みの具体例が知りたい。
- もっと多様な行政、企業、学校、地域の取り組み活動事例、実践例を紹介してほしい。
- 高校生の発達段階にあった課題設定や解決方法等に関する助言の在り方について知りたい。
- ESDを学ぶことでの子ども達、地域の人々の意識の変容、それを促す仕組み、仕掛けづくりについて知りたい。
- 学生さんなどが講師となって、事例を紹介してほしい。
- 社員の意識向上、ESD/SDGsを社員がもっと差し迫った問題として考えられる方法が知りたい。
- 自然保護を活動の核とした地域創生の事例とその可能性について知りたい。
- 企業関係者の参加が少なかったため、企業関係者にもっと届く広報のツールなどの開拓が必要ではないか。
- コロナ禍NPOの現状と終息後のNPOを考えるというようなセミナーを開催してほしい。
- 第5回のブレークアウトセッションで、事例紹介について、その事例はどうして生まれたのか、どうしてこうなったのか、そのバックストーリーをもっと深掘りして聞きたかったという意見があった。そういう点では、1回あたりの研修で取り上げる事例を一つに絞って、より深掘りしていけるようにするのも良いのではないか。
- オンラインセミナーは会場で聞くよりわかりやすく、もっと開催していただきたい。
- 今後もオンラインセミナーを継続してほしい。次世代を担う子ども達の活動はとても参考になる。

【議案1】

<成果及び課題>

- アンケート結果に基づくと、各回どれも好評だった。
- オンラインセミナー開催のニーズがあり、全国から一定程度の参加人数は得られているが、参加者数が少ないので、100名程度確保できるように広報の方法、テーマ設定の工夫などが必要である。
- 5回分まとめて申し込めるようにしたが、参加申し込みをしても参加しない人が半数程度いるので参加人数を見込みにくい。
- 講師の発表時間を短くし、参加者との意見交換、討論の時間を確保したが、参加者からの発言が出づらい。
- 会員でない参加者に会員となっていただくような働きかけやインセンティブを打ち出すことが必要。
- オンラインセミナーの事前準備、当日の運営、アンケートの回収・集計、報告書の作成とかなり労力のかかる作業が発生するので、資金を獲得して事業化したい。将来的には有料のセミナーが開催できるようにしたい。

III 運営体制、及び組織基盤強化

1 ESD-J運営体制

■役員（理事14名、監事2名、顧問4名）

役職	氏名
代表理事	阿部治、重政子
副代表理事	池田満之
理事	宇賀神幸恵、大島順子、小金澤孝昭、小玉敏也、下村委津子、新海洋子、鈴木克徳、鳥屋尾健、中田和彦、福井光彦、三宅博之
監事	浅見哲、吉岡睦子
顧問	池田香代子、岡島成行、廣野良吉、高木幹夫

○役員役割表

役割	氏名
組織運営理事	阿部治、重政子、池田満之、鈴木克徳、小金澤孝昭
総務・労務・経理担当理事	重政子、池田満之
広報担当理事	下村委津子、福井光彦
羅臼事業担当理事	中田和彦、鈴木克徳、池田満之
ステイクホルダー間の連携担当理事	【学校】 小金澤孝昭、小玉敏也 【国際協力分野】 鈴木克徳、三宅博之
地域担当理事	【北海道】 中田和彦 【東北】 小金澤孝昭 【関東】 鳥屋尾健、小玉敏也 【近畿】 下村委津子 【中国】 池田満之 【四国】 宇賀神幸恵 【東海・北陸】 新海洋子、鈴木克徳 【九州・沖縄】 三宅博之、大島順子
監事	浅見哲、吉岡睦子
顧問	池田香代子、岡島成行、廣野良吉、高木幹夫

【議案 1】

■事務局

役 割	氏 名
事務局長	横田美保
事務局スタッフ	牧野朝香、武田朋子、齋藤さおり、後藤奈穂美

<会員数>

※2020年度の会員数、(前度の会員数)、差異を表示

種 類	会員数	種 類	会員数	種 類	会員数
団体正会員	38 (37) +1	団体準会員	14 (14) ±0		
個人正会員	54 (53) +1	個人準会員	(65) ±0		
賛助会員	4 (4) ±0	特別賛助会員	1 (1) ±0	連携交流団体	5 (5) ±0

2 組織基盤強化

(1) 事務局活動の強化

事務局員1名の増員により、新規事業立案のための調査、国際事業等を強化したが、私事都合による10月末の退職により、年度の後半は上記業務を専門に担う事務局員は不在となった。コロナ禍のために在宅勤務への移行を余儀なくされたが、迅速なテレワークの制度・体制の導入により、在宅でも出勤時と変わらない質の業務を行えた。

(2) 広報活動

未来につなぐふるさと基金の非資金的支援で、ファンドレイジングの研修を受講し、ファンドレイジングの考え方の基本、ファンドレイジング戦略を考える手順、財源構成の考え方、中長期事業計画の策定とファンドレイジングの関連、寄付や会費などの支援性財源獲得に向けた施策の検討方法、ステークホルダーピラミッドなどのツールについて教えていただいた。

ツールや知識をもとに2020年度は広報活動の方針を策定した。2020年度はセミナーの実施や好事例の情報収集と発信を中心とし、ESD-Jのファンづくりに努めることとし、将来的には会員の増加を目指すこととした。上記の活動方針に基づき、以下を行った。

- ① アンケートを作成し、好事例を行っている自治体や企業を理事に推薦していただいた。
- ② それを基に事務局がコンタクトし、オムロン株式会社様にインタビューを実施し、ウェブサイトに掲載した。
- ③ 第3回オンラインセミナーに損保ジャパンCSR室長・越川様と、株式会社SOUGO北條社長に講師として参加していただいた。その発表内容を文書化し、株式会社SOUGO様の取り組みをウェブに掲載するよう原稿を準備したが、2021年4月より事業を再編成するとのことで、同社のウェブサイトが改訂された後に新たに原稿を見直し、必要に応じて追加取材を行うこととする。
- ④ 講師派遣のウェブページの充実等、ウェブサイトの改訂作業を行った。(次年度も引き続きウェブサイトの改訂作業行う)
- ⑤ 講師派遣の宣伝、短いスローガンなどをメールの署名に設定した。(事務局員)

(3) 効果検証に基づく情報発信の強化

2020年度も引き続き、メーリングリスト(投稿計249回、ESD-J関係者160回、会員89回)、ウェブサイト、SNSを活用した情報発信・広報ツールの強化、ニュースレターの定期発行(年4回)等による会員等への情報発信を行った。新たにラインのESD-Jアカウントを作り、イベントのお知らせなどをラインでも配信した。

【議案 1】

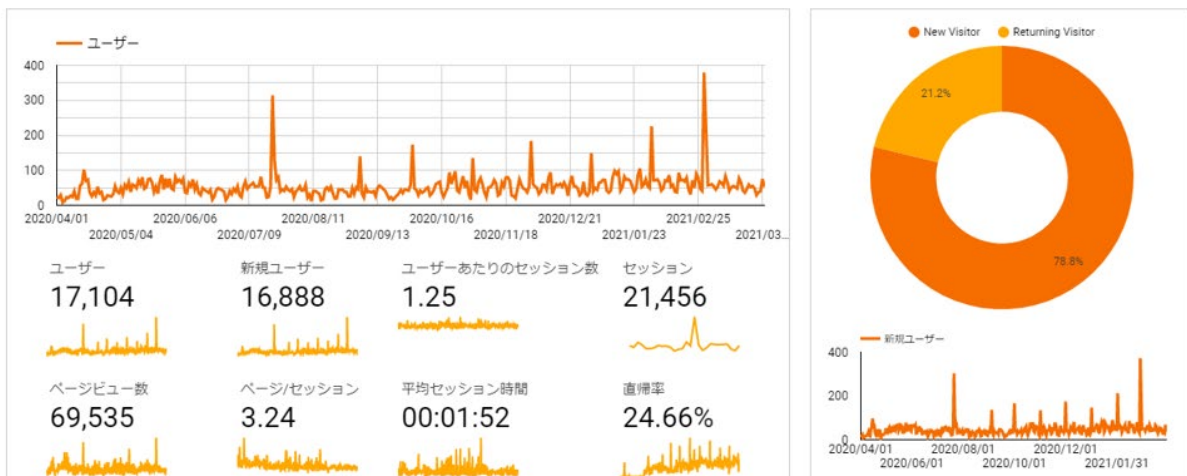
2020年度もGoogle AnalyticsとGoogle Search ConsoleなどのWEB解析ソフトを活用して、ウェブサイトの来訪者の意向や傾向を分析し、ESD-Jの認知向上のための効率化を図った。解析結果は以下の通り。

<Google Analytics からの集計情報>

ア 訪問ユーザー数²・セッション数³

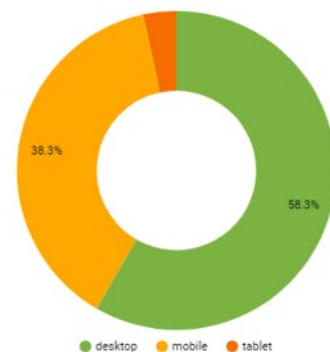
- (ア) ユーザー数は、17,104ユーザー（昨年9,956ユーザー）と昨年の1.7倍に増えた。うち新規ユーザーは16,888ユーザー（昨年9,870ユーザー）であった。
- (イ) セッション数は、21,456回で（2017年8,908回、2018年12,253回、2019年12,461回）、昨年度より1.7倍増加した。うち71%は新規セッションであった。
- (ウ) 1ユーザーあたりのセッション数は1.25。1セッションあたりのページビュー（PV）数は3.24。平均セッション時間は1分52秒だった。直帰率⁴は、24.66%で訪問者の1/4は1ページしか閲覧していない。

Your audience at a glance



イ アクセスユーザーの属性

- (ア) ユーザーの使用言語は日本語が76%を占め、次いで英語12%、残りは中国語、韓国語などのアジアが多い。大陸別で見ても言語同様に87%アジア、8%アメリカ大陸からのアクセスが多く、ヨーロッパ大陸、アフリカ大陸からもアクセスはあるが少ない。
- (イ) 使用デバイス別に見ると、デスクトップPCが58%（前年48%）、モバイルが38%（前年47%）、タブレットが3%（前年5%）となった。モバイルの割合が減り、デスクトップPC利用率が上がったのはコロナによる在宅時間が長くなったことが原因と思われる。



² ユーザー数：指定した集計期間において、サイトへの訪問した人数から重複を除いたもの。

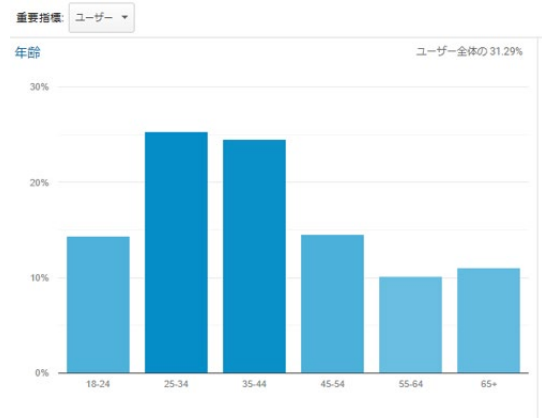
³ セッション数：ユーザーがサイト訪問した回数を意味し、別名「訪問数」とも呼ぶ。

⁴ 直帰率：全セッション中、1ページだけで離脱した人の割合。

【議案 1】

ウ 世代別

25歳～34歳の層が25%、35歳～44歳の層が24%と、ここまではほぼ半数を占める。最も若い世代の18歳～24歳の世代が、直帰率が最も低く、ページセッション数が4.14と最も多く、平均セッション時間3分33秒と最も長い。つまり、若い世代のアクセス数は少ないが、アクセスした人は、すぐに去らず、より多くのページを読む傾向が見られた。逆に、55歳～64歳の層が、最も直帰率が高く、平均セッション時間も1分28秒と短い。



エ 男女比

男性53.9%、女性46.1%と男性が少し多い傾向にある。僅かな差ではあるが、男性の方が直帰率が高く平均セッション時間は2分20秒と長い。

オ 閲覧者のアクセス経路

ESD-Jのサイトまでの流入経路は、全セッション21,456のうち、サーチエンジン経由が(57.5%)、直接アクセス(36.5%)、残り6%が、他のサイトからのリンクやソーシャルメディア(FB、Twitterなど)からとなっている。参照元別に見ると、Google41.5%、直接33.8%、Yahoo12.1%、bing4.1%、フェイスブック(モバイル等合計)2.5%。

カ 閲覧者の行動

(ア) ページビュー

2020年度のページビュー数は69,535PV、ページ別訪問者数は32,225、平均ページ滞在時間は49秒となった。経年比較では、昨年度から比べて1.3倍に増加した。(2017年50,320PV、2018年53,647PV、2019年54,996PV)。しかし、アクセス数は増えたが、閲覧ページ数は少なくなっており4人に1人は1ページしか見ないで去ってしまう。離脱率は、30.82%なので、ESD-Jのサイトにアクセスしてきた3人のうち2人は、ESD-Jの他のページを見に行っている。

(イ) 訪問数の高いサイト

1位	ESD-J トップページ (15,257PV) 47.3%
2位	ESD とは? (4,756PV) 14.7%
3位	第2回 ESD トーク「夢は半径500m 圏内に健康で持続可能な地域をつくること」鈴木大輔さん (4,708PV) 14.6%
4位	「新型コロナウイルス発生の裏にある“自然からの警告”」五箇公一先生 (4,033PV) 12.5%
5位	ESD-J 理事・事務局紹介 理事の自己紹介ページ (1,973PV) 6.1%
6位	【告知】ESD-J 主催 オンラインセミナーシリーズ「持続可能な社会のための人材育成」5回分告知 (1965PV) 6.0%
7位	「持続可能な社会の創り手の育成」が明記された新学習指導要領 (1433PV) 4.4%
8位	団体概要(設立趣意書、役員名簿、定款、細則、役員選出規定) (1,019PV) 3.1%
9位	企業インタビュー【第1回】株式会社日能研 代表 高木幹夫 (822PV) 2.5%
10位	【告知】安全・安心なファミリーレストラン!!びっくりドンキーオンラインワークショップ (785PV) 2.4%

(ウ) ダウンロードと外部リンク

イベントカテゴリー別に、ダウンロードは7,413PV、外部リンクへの誘導は4,779PV。オンラインワークショップの講師資料をダウンロードできるようにしたために、多くの方が利用してくれたと推測できる。バーチャル会場「エコライフフェア2020」への誘導を行なうなど、外部リンクへの誘導も多かった。サイトから電話をかけたが4PVあった。

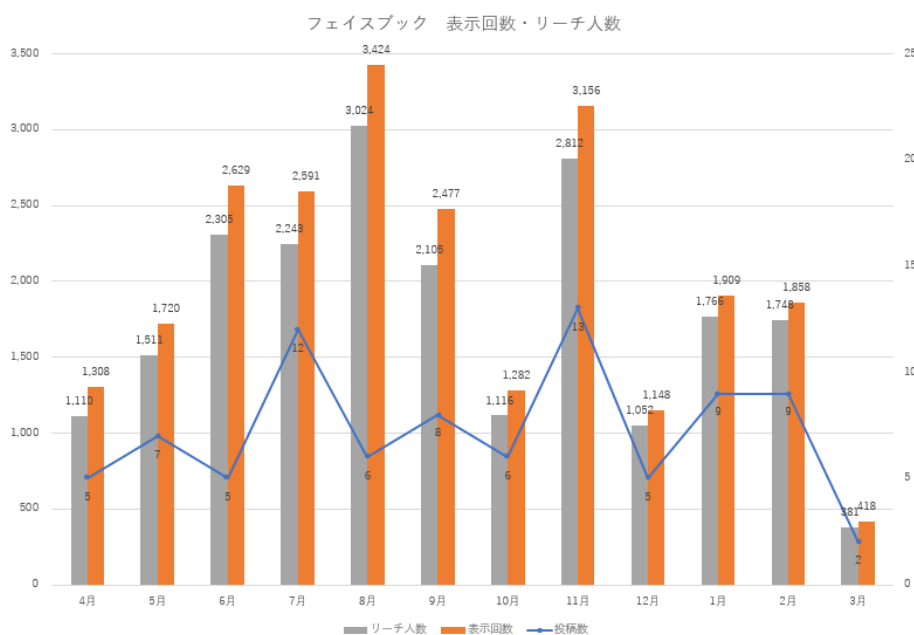
【議案 1】

<Facebook Insight からの集計情報>

ア 年間投稿数

今年度の投稿数は、87件（2019年度94件）であった。リーチ数は21,173人（前年29,747人）、表示回数は23,920回（前年40,225回）であった。また、投稿に対する「いいね!」、シェア、コメント、クリック（写真・リンク・その他）といった4種類のリアクションをした人数（=エンゲージメント数）は1,130人（前年1,774人）であった。なお「投稿にリアクションした人数 ÷ 投稿がリーチした人数」で算出されるエンゲージメント率を用いて、ユーザーからの支持の高さを測り、エンゲージメント数と、エンゲージメント率を上げるように広報活動は一般的に行うのだが、ESD-Jの年間平均エンゲージメント率は5%であった。このエンゲージメント率5%というのは、通常0.5~2%が平均であるため非常に高い数字で、ESD-Jのファンは得た情報に対して高い確率で何らかのアクションを起こしていることが数字で証明されている。

FBフォロワー数は、4月1日に2,061人だったのが3月31日に2,092人と33名増えた。また「いいね!」の通年平均値は、2,052いいね！（前年2,028）と11%増加した。



(4) 2030年に向けたESD-J活動計画の策定について

2019年に「SDGs（持続可能な開発目標）達成に貢献するESD-Jのビジョンとミッション」（補足資料1）を作成したが、ESD for 2030の枠組みの中で再度ESD-Jが果たすべき役割の明確化、そして定量的、定性的な指標を設定した中長期目標策定の必要性を理事間で確認し、ワーキンググループ（WG）を組織した。2021年1月に会員の皆様に「ESD-J今後の事業展開についてのアンケート調査」にご協力を頂き、地域でのESD活動の状況、課題、必要な支援、ESD-Jに期待すること、担うべき役割等についてご意見を頂いた。その内容を踏まえ、3度にわたりWGミーティングを開催し、理事懇談会、理事会で活動計画の策定の方向性を確認、議論を重ねた。2019年に実施した会員対象のアンケート結果や、2021年度総会等における会員の皆様との議論も踏まえて、2021年8月を目途に2030年に向けたESD-J活動計画を完成させる予定である。現在のドラフトは（補足資料2）を参照のこと。

【議案1】

(5) えるぼし⁵、くるみん⁶、エコアクション21⁷の申請

組織基盤の強化として、2020年度は下記の取り組みを行った。

① えるぼし、くるみんの取得を目指した一般事業主行動計画の策定・公表、キャリアアップ計画書の策定・公表

これまでも積極的に女性の雇用を行ってきており、男女平等な機会と待遇の確保を行ってきた。また、時間外労働、休日労働は業界の平均よりも低い水準であり、本人の希望に基づく一定上限内でのフレキシブルな勤務の導入を行うなど、働きやすい労働環境の整備を行ってきた。しかし、今以上に全ての職員がその能力を十分に発揮し、男女ともに長く勤められる職場環境を整備するため、「女性活躍推進法」と「次世代育成支援対策推進法」に基づき一般事業主行動計画、キャリアアップ計画書を策定し、2021年3月8日に当団体ウェブサイト、並びに女性の活躍推進企業データベースに公表、労働局に届け出を行った。その行動計画に基づき、3年間のタイムスパンで更なる労働環境・制度の整備を進めることとする。

◆ESD-Jのウェブサイトに掲載：<https://www.esd-j.org/aboutus/outline/report/report06>

② エコアクション21⁷の申請

これまで持続可能な社会づくりのために環境に配慮した事務局運営、イベント実施等を行ってきたが、具体的な取組目標の設定や評価は実践してこなかったため、エコアクション21の取得を目指し、取り組みの可視化、対外的なPR、組織内の意識の向上、より一層の環境貢献活動の強化に取り組むこととした。具体的に設定した目標としては、省エネ、節水、一般廃棄物の削減、印刷用紙の削減、グリーン購入の推進であり、それに加えてESD-Jの本業（ESDの推進、人材育成、イベント等の企画・運営、政策提言活動等）を通じた環境貢献活動、持続可能な社会づくりを目指す。環境経営レポートはウェブサイトで公表している。

IV 総会・理事会等

会議名	開催日	開催方法
<総会>	2020年6月13日（土）	全て電磁的方法で開催
<理事会>		
第1回	2020年4月4日（土）	
第2回	2020年5月23日（土）	
第3回	2020年7月1日（土）	
第4回	2020年10月10日（土）	
第5回	2021年2月6日（土）	
<理事懇談会>		
第1回 新旧理事懇談会	2020年6月13日（土）	
第2回 理事懇談会	2020年8月16日（土）	
第3回 同上	2020年10月10日（土）	
第4回 同上	2020年12月12日（土）	
<組織運営委員会>		
第1回	2020年9月6日	

⁵ 厚生労働大臣による女性の活躍推進の状況などが優良な企業、団体の認定制度

⁶ 厚生労働省が仕事と子育ての両立支援に取り組んでいる企業、団体を認定する制度

⁷ 環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステム（EMS）。一般に、「PDCAサイクル」と呼ばれるパフォーマンスを継続的に改善する手法を基礎として、組織や事業者等が環境への取り組みを自主的に行うための方法を定めている。

【議案1】

会議名	開催日	開催方法
第2回	2020年9月27日	
第3回	2020年10月27日	
第4回	2020年12月8日	
第5回	2020年12月24日	

V 協賛・後援名義の実績/ ESD-J理事の講師派遣等実績

1. 協賛・後援名義の実績

No.	種類	団体名	イベント・企画名
1	後援	COLOMAGApj	子どもローカルマガジンプログジェクト COLOMAGA
2	後援	四国地方ESD活動支援センター	ユース等取組交流会～トビタテ！四国の ローカルSDGs～
3	後援	公益社団法人ガールスカウト日本連盟	コミュニティアクション チャレンジ 100 アワード
4	後援	公益社団法人ガールスカウト日本連盟	国際ガールズメッセイベント
5	後援	麴町納税貯蓄組合連合会	税で考える週間シンポジウム「納税で持続 可能な日本に」
6	後援	立教大学ESD研究所	第3回全国ESD・SDGs自治体会議
7	協力	一般財団法人持続性推進機構	環境 人づくり企業大賞2020
8	後援	公益社団法人日本環境教育フォーラム	清里ミーティング2020@オンライン
9	協力	毎日新聞社	第9回イオンエコワングランプリ
10	後援	四国地方ESD活動支援センター	令和2年度「地域ESD活動推進拠点交流会 ～LS四国と共に～」
11	後援	次世代エネルギーワークショップ推進 委員会	2020年度 次世代エネルギーワークショ ップ（若手社会人編）
12	後援	四国地方ESD活動支援センター	四国ESDフォーラム2021
13	後援	公益社団法人ガールスカウト日本連盟	コミュニティアクション チャレンジ 100 アワード

2. ESD-J 理事の講師派遣等実績の要旨

活動内容	件数	受益者数
講演・講義	31件	2,005人
委員会委員	20件	329人
その他（イベント・ワークショップ実施、視察対応、研修会の運営、 シンポジウム等の参加及びコーディネート、指導助言等）	27件	3,129人
合計	78件	5,463人

以上